

2025/05/23

好きなことに夢中になれる、部活動の未来が見えた！

～大阪・関西万博で参加型ステージイベントを開催！

#ミライブカツ #万博 #イベント



©SNK CORPORATION ALL RIGHTS RESERVED.

東京書籍は2025年5月4~6日、大阪・関西万博の「大阪ヘルスケアアパリオン リボーン ステージ」において、参加型ステージイベント「ミライブカツ in リボーン ステージ」をTOPPANホールディングス株式会社との共催で開催しました。このイベントは、「好きなこと」に夢中になる気持ちを出発点に、学びや挑戦、そしてミライへの一歩へつなげる「未来の学びのかたち」を、eSports部とArt & Creative部の2つのジャンルを通して体験・発信する試みです。開幕して盛り上がりを見せる万博会場の一角で、どのような「ミライ」を提案するイベントが行われたのでしょうか？ 熱気あふれる万博会場を訪れた広報チームが、白熱したイベントのリアルな様子をお伝えします！

東書 NEWS! | No.09

大盛り上がりの万博会場！

今回取材したのは、ゴールデンウィークも真っただ中の5月5日、子どもの日です。イベントの日程もそれにあわせて設定されたそうで、さすが教科書会社（笑）。開幕日の報道で心配だった東ゲートの入場もとてもスムーズで、最初のイベントが始まるかなり前に入場することができました。

会場はたくさんの人で盛り上がっており、人の間を縫うように歩いて到着すると、大阪ヘルスケアパビリオンの前に立派なステージが見えてきました。

ちなみに、ステージ前の広場には、eSports やアートに気軽に触れられる常設ブースもあり、すでにたくさんの子どもたちが楽しんでいる様子も見られました。時折、子どもよりも夢中になっている大人のみなさまもちらほら…。



つながり×挑戦！eSports 部！

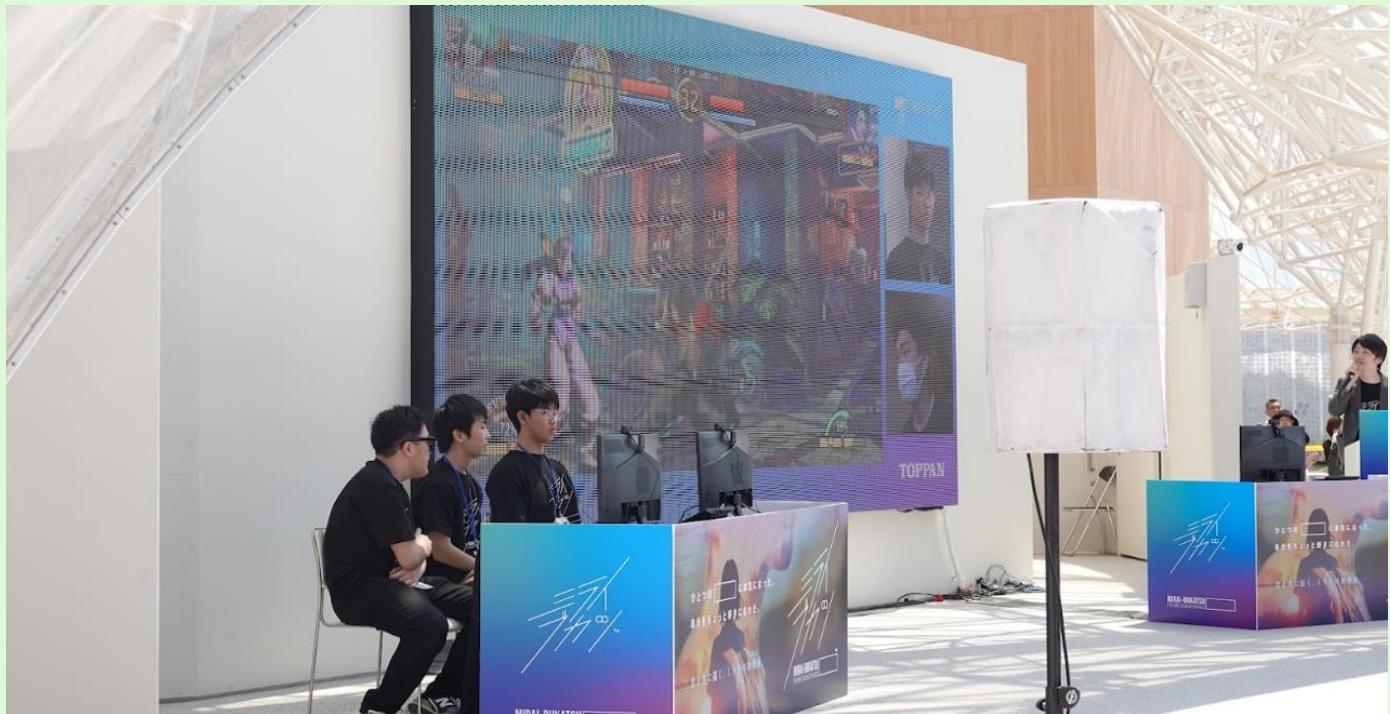
午前10時、ミライブカツ eSports 部の1つ目のプログラムとして、大学生によるオンライン対抗戦がスタート。eSports にドはまりしている大学生三人がチームを組み、万博会場から全国のライバルとオンラインでつながり、先鋒-中堅-大将に分かれて、人気格闘ゲーム「餓狼伝説 City of the Wolves」で熱い対戦を繰り広げました。この対抗戦は「部活動のフォーマット」を採用しており、プロゲーマーである SCORE さんからオンラインでアドバイスを受けられるというのもポイントの一つ。

参加した大学生からは「人前でプレイするのは初めてで緊張する」という声もありましたが、SCOREさんは「いい試合を見せてもらえそうで楽しみ」といった期待のコメントが送られました。



場所にしばられずに遊べるのがいい！

そして、いよいよゲームが開始です！ それぞれが「餓狼伝説 City of the Wolves」のキャラクターたちを見事に使いこなし、白熱したバトルが繰り広げられていきます。会場の大画面に映し出される試合と、スポーツキャスターのシンイチロオさんによる的確な実況で、会場は大盛り上がり。オンラインで自宅から参加していた大学生からは、「家から参加していても緊張してしまう。場所に縛られずに遊べるのがいい」といったコメントも。最終的には万博会場にいる3人組の大学生チームが勝利を収めました。



©SNK CORPORATION ALL RIGHTS RESERVED.

プロから学ぶ、真剣コーチング！

続いて行われた、eSports 部の 2 つ目のプログラムでは、格闘ゲームにあまり慣れていない小学生たちが部員となり、プロゲーマーの SCORE さんと一緒に「餓狼伝説 City of the Wolves」に挑戦するコーチングセッションが実施されました。

ステージ上の小学生たちは、操作や技を自分なりに試しながら、画面越しの SCORE さんのアドバイスを受けて再チャレンジ。最初は緊張していた小学生たちも、技が決まるたびに夢中になり、真剣な表情でコントローラーを握っていました。

そしてコーチングの最後には、集大成として SCORE さんとの特別対戦が実現。プロを相手に思い切って攻める子、コンボを決めてガツツポーズをする子——それぞれがこの短時間で自分なりの成長を見せてくれました。対戦後、「コンボとかしっかりしていてさすがプロゲーマーだなと思いました」という感想も聞かれ、会場は温かい拍手に包まれました。

最後に SCORE さんから「将来は僕らと競い合う仲間になってくれたら」というエールが送られました。



アート×共創！Arts & Creative 部

その後、ステージを飾ったのは、ミライブカツ Art & Creative 部。ここでは、4 人 1 組で構成された高校生チームが登場し、「未来のかけら (Future Bits)」をテーマに、ステージ上でライブドローイングを展開しました。

チームのメンバーは、すべて異なる学校から集められた高校生たち。本番の約 1 か月前からオンラインでつながり、「どんな未来を描こうか？」を何度も話し合い、構想を練ってきたそうです。

制限時間はわずか 10 分。4 人の高校生たちが、それぞれのスタイルでひとつのテーマに挑む姿に、観客も思わず息を呑みます。「どんな絵が描かれるのだろう」「この短時間で本当に仕上がるのか」——そんなワクワクと不安が入り混じった空気が、会場を包み込みました。



一方でステージ上の高校生たちは、最初こそ硬さが見えたものの、描き進めるうちに一人ひとりが集中を深め、やがて互いの動きと呼吸を合わせるように、作品がかたちを成していきました。描き終えたあとには、「始める前はすごく緊張していたけど、描き出したら夢中になって、緊張なんてどこかへいってしまった」「練習ではうまくいかなかった構図が、本番ではうまく描けて、本当に嬉しかった」「隣に仲間がいることで安心できた」と、参加者たちの口から素直な気持ちがこぼれました。



限られた時間と初めての舞台というプレッシャーの中で、支え合いながら表現し切ったその姿に、観客からは自然と大きな拍手が送られました。初対面とは思えないほどのチームワークと集中力が、ステージにも観客にも、確かな感動を残していました。



高校生たちのパフォーマンスに続いては、プロのクリエイター2名によるライブドローイングも実施されました。それぞれが異なるスタイルで“未来のかけら”を描き出し、洗練された構図とスピード感あふれる筆運びに、観客からは感嘆の声が上りました。高校生たちの挑戦と、プロによる圧巻のパフォーマンス。その対比と連續性が、アートが持つ可能性と奥深さを際立たせていきました。

* * *

さて、東京書籍が提案する「ミライブカツ」、いかがでしたか？ 東京書籍は大阪・ヘルスケアパビリオンにおいて、「未来の学び」をテーマに出展しています。ぜひ、大阪・関西万博にお越しの際は、東京書籍ブースにお立ちください！